

令和4年度熊本市学校プール再編懇談会

日時：令和4年(2022年)10月20日(木) 14:00～16:30

場所：SPring 熊本花畑町7階会議

○議事

- 1 開会
- 2 教育委員会事務局挨拶
- 3 関係者紹介
- 4 懇談会趣旨説明
- 5 議事「熊本市学校プール再編について」
 - (1) R4 モデル事業の報告および検証について
 - (2) R5 以降の方向性について

○出席者

熊本大学大学院教育学研究科	教授	坂下 玲子
熊本市 PTA 協議会代表	古町小 PTA 会長	内村 由起
民間プール運営団体代表	熊本県スイミングクラブ協会副会長	大賀 恵美
民間プール運営団体代表	熊本県スイミングクラブ協会副会長	梶原 純一
熊本市立小学校校長代表	黒髪小学校長	柴田 治穂
熊本市立中学校校長代表	楠中学校長	平生 典子
モデル事業校	飽田南小学校長	赤星 和明
モデル事業校	田底小学校長	益永 一幸
モデル事業委託業者	流泳館熊本西部スイミングクラブ	西川 幸子
モデル事業委託業者	マリーンスイミングクラブかもと	小代 孝尚
モデル事業候補校	芳野小学校長	西釜 勝久
モデル事業候補校	芳野中学校長	平木 美和
モデル事業候補校	城北小学校長	石原 将
モデル事業候補校	吉松小学校長	村上 利美
熊本市教育委員会事務局	教育次長	松島 孝司
熊本市教育委員会事務局	教育総務部長	中村 順浩
熊本市教育委員会事務局	学校教育部長	田口 清行
熊本市教育委員会事務局学校施設課	課長	内村 智
熊本市教育委員会事務局指導課	課長	福田 衣都子
熊本市教育委員会事務局指導課	教育審議員	星田 正治
熊本市教育委員会事務局指導課	指導主事	嶽下 大輔
熊本市教育委員会事務局指導課	指導主事	高宮 さつき

熊本市教育委員会事務局指導課

事務局	プール再編事業について説明する。本事業は h29 熊本市公共施設等総合管理計画をもとに実施。長期的な視点での市施設の長寿命化計画の一環。市公共施設の 35% が学校施設である。今後の市の目標は、40 年間で公共施設の 20% 削減。教育委員会として小学校プールの再建を見直していくことを検討した。 理由は、学校プールは学校施設の中でも使用頻度が低い。また、利用期間が約 2 か月であり、建設費用も高い（約 1 億 5 千万円）。耐用年数が約 50 年を超えるものは建て替えが必要であり、今後そのような学校が増えていく。 そこで今年度は、民間スイミングとの連携を実施。メリットとしてプール掃除、水の管理なし。天候に左右されない。インストラクターの指導。プール監視職員のプラスワンの配置が不要。バスでの安全な移動。職員も指導法を学ぶ場となり、指導力向上につながる。児童の泳力向上が予想される。デメリットとして、日程、指導内容等の調整、児童の遅刻者等の対応、夏休みのプール開放、民間スイミングが閉鎖された場合の対応があげられる。 プールの維持管理費 1 校平均年間約 125 万円。建て替えると約 1 億 5 千万円かかり、年間の維持管理費を含めるとコストは年約 425 万円かかる。民間スイミングを使用した場合、年間 1 人 9 千円。この金額は先進地、政令市から情報を得てこの金額を設定した。インストラクター代、バス代を含む。この金額にした場合、472 名以内の児童数であれば、民間スイミングを利用した方が、コストがかからない。今後、8 年で築年数 50 年以上、学校以外のプール施設までの移動時間片道 10 分以内の学校はスライドに示したとおりである。 今年度は飽田南小、田底小にモデルをしていた。飽田南小は、90 分×5 回、田底小 75 分×6 回であり、時間と回数は異なる。また、指導の連携の方法であるが、飽田南小は T1 がスイミングクラブ、T2 が教員。田底小は T1 が教員、T2 がスイミングクラブであった。それぞれの学校が違う形での取り組みになった。各学校長から報告をしてもらう。
赤星校長	飽田南小は全校児童 244 名、通常学級が 9、特別支援学級が 2 である。プールの現状でプール築 53 年。さび、フェンスのゆがみ等、補修が必要な状態。 本年度、モデルとして流泳館で授業をさせていただいた。私が本年度飽田南小に異動したので、モデル校のことをあまりわかっていなかったのだが、4 月 8 日に教育委員会指導課からの説明。11 日に流泳館との打ち合わせ。授業の実施時期について打ち合わせを行ったが、学校の希望としては夏休み前に実施したいことを無理言ってお願ひした。6 月の上旬から 7 月の上旬までということで計画を立て実施した。午前中のみ実施した。午前中 2 時間を 1 回ということで 1、2 時間目を 2 年生、3、4 時間目を 3 年生という形で組んだ。7 月の上旬に終わることができた。 民間の施設を利用するので、指導と評価の計画について作成をし、流泳館との打ち合

せを実施。保護者には4月18日通知した。配布した際には質問等はなかった。流泳館から安全対策ということで、児童向けに注意事項の通知。これについても保護者に配布。

1日の流れを説明する。1.2時間目の場合、8時30分にはグラウンドでバスを待つ。バス2台。グラウンドまでバスが入ってUターンをして子ども達が乗るという形になる。学校の敷地がとても狭いので、バスの行き来が心配であった。必ず職員がついて安全確保を行う。スイミングに到着後更衣をし、プールサイドに整列。インストラクターから指示を受ける。1年生のみ4班に分かれる。他の学年は3班。1班につき、1名のインストラクターがつく。

特別支援病弱学級の児童も学校で水泳の授業を行うのと同じように実施してもらった。5.6年生は着衣水泳を実施。

着衣水泳は、流泳館のご厚意で消防士の方に指導をしていただいた。6年生は小学校最後の水泳授業ということで、最後の授業の際に思い出作りで玉入れや水球もさせていただいた。流泳館に提案をして頂き、卒業アルバムの業者さんに来て頂いた。6年生には修了賞を一人一人作って頂き授与してもらった。子ども達はとても喜んでいた。

メリットとして専門的な指導を受けることができる。日常と違う形で子ども達は刺激を受け、集中して学びを深めることができた。1回1回をととても楽しみにしていた。紫外線、熱中症対策等快適な環境の下学習できた。デメリットとして回数が5回と限られているため1回欠席した場合、2時間分が欠席になってしまう。出席状況を確認すると不登校の子どもを除いて、1回しか泳いでないという子も何人か見受けられた。コロナ禍でもあるので、少しでも体調が悪いと休まなければならない状況等もあるので、回数的に厳しいところはあった。低学年は1回で60分泳ぐことになるので、体力的に厳しい所があるかと感じる。

また、それぞれの能力に合わせた指導ができない。互いに初めて（学校、民間）の取組であるため、水泳も2年ぶりに実施で子ども達それぞれの技能のデータがないということもあるため班は均等に分けて実施した。

教員のメリットとしては、負担軽減に非常になっている。特に安全対策としてプラスワンでインストラクターの方がたくさんついていらっしゃるの、非常に助かった。また、指導法を見ることで、勉強になった。デメリットとして、60分泳ぐことで水泳が終わってから子ども達が非常に疲れていた。また、本校は狭いということでバスの乗降は少し心配という声があった。

評価については一人一人細かくその日に出来たこと、出来なかったこと等が記入してある。インストラクターが評価をサポートし、教員が評価を行っている。また、アンケートであるが、「来年度も民間スイミングで授業をしたいか。」の問いに90%以上、教員に関しては100%が望んでいる。「昨年度の学校水泳授業に比べて今年度の民間スイミングでの授業が楽しかったか。上手になったか。」についても90%を超えている。ただ、学年が上がるにつれて「とても」の項目が低下している。その理由としては、もっと泳ぎたい。回数が少ないということが泳げる子どもにとって物足りなかったのではないかと。（流泳館に通っている児童も多いので。）

益永校長	本事業を継続するにあたっては、回数や低学年の時間についての検討が必要。来年度は記録を管理してあるので、上達レベルに合わせた継続指導やある程度の能力別の班編成ができるのではないかと考える。 プール自体が老朽化しており、安全面、衛生面についてこのまま管理していくことが難しい。撤去や改善が必要になってくるのかと考える。保護者、児童、教員ともに来年度もぜひこの事業を継続していただけたらと思う。 本校のだいたい直線距離で 500m ほどにマリンスイミングがある。バスで 5 分ほどの距離である。児童は遠足気分バスに乗って行っている。児童数が 98 名。1 クラス 15 名ほど。2 学年での実施。1 回で 30 名ほどの人数で実施。打ち合わせを数回実施。4 月 23 日の P T A 総会にて保護者に説明。マリーンさんからも説明を実施。保護者も安心された。5 月には低中高学年で打ち合わせを実施。どういふうに授業を進めるかの基本姿勢をすり合わせた。場所をマリンスイミングに移す考えで、基本的には学習指導要領に則って実施。主は教員、ゲストティーチャーとしてインストラクターが入るという形で実施。6 月から 9 月にかけて実施。9 月に泳力調査を実施。泳力調査の時に少し、夏休みを挟んだので、子ども達の実力がでなかったのが反省である。市教委からの視察、1、2 年 3、4 年の保護者参観実施。 1 日の流れであるが、2、3 時間目で実施。充実した水泳授業のためにそれぞれの強みを生かした学習課程を組む。学校の方は準備運動、バディチェック、スキルアップタイムということで知識、技能だけではなく、学び合いの時間は学校の教師にて行う。課題別（1 回目の授業で調査をし、グルーピングを実施）のグループ学習、個別の指導はマリーンさんをお願いした。より効果的な授業のために NHK for school 映像を児童に事前にポイントを宿題として、見ておくようにした。実際の授業の流れは協働的な学びの視点で子どもの学び合いの時間を実施。監視、技能の指導をきちんと実施していただいた。保護者によるアンケートでは「ぜひ来年もお願いしたい。」「マリンスイミングさんの指導でみるみる上達した。」「プールのお話をよくしてくれる。」「安全に学習できた。」「学年での活動の時間があるのもよい。」「レベルごとがよかった。」「天候に左右されないで安心。」といった意見があった。 夏休みをはさんだので、泳力調査は思ったほど伸びなかった。しかし、どの学年も伸びている。6 年生がクロールで初回 15.7m から 33m。平泳ぎが 7.7m から 16.3m。5 年生がクロール 13m から 25.8m。平泳ぎが 9.8m から 27.2m。4 年生は最高 52.4m。3 年生が 34.4m。中学年が伸びている。少し二極化が見られる。授業後の児童の感想「もっともっと泳いで選手になりたい。」「T 先生にコツを教えてもらった。」等、個人名がでてきたので、インストラクターの先生との密接な関係が築けているのが伺える。 「長く泳げるコツを教えてもらったので良かった。」「手のかき方、息継ぎの仕方、目線はどこにおけばよいのか。ということがわかりました。」「手を伸ばして泳ぐことができてよかった。」「手と足の順番を意識して泳ぐことができた。」これは平泳ぎのコンビネーションである。ポイントを言葉で表せるということは意識がしっかりできているという
------	---

事務局	証拠だと思う。着衣水泳も実施。「着衣泳は出来るか不安だったけど、ペットボトルを持つと上を向けて安心できました。」「とてもいい経験をすることができた。」という声があった。 来年度にむけて吉松小も同じ植木北中に行くので、小小連携からの視点から同じ学年で合同での実施をしていくこともよいのではないかなと思う。 モデル授業実施後のアンケートの結果を説明する。対象者は、児童、保護者、教職員。各校長から説明があったが、各学校で相違があるかという視点で、確認したい。児童は「楽しかったか」について両校とも95%。保護者は「児童が楽しそうにしていたか」について両校とも95%。教員は「児童が楽しそうにしていたか」について両校とも100%であった。児童は「泳ぎが上手になったか」両校とも85%。「児童の泳ぎが上手になったと思うか」について保護者は若干相違がある。「あまり思わない・思わない」という回答が飽田南小で18%あった。おそらくこれは回数が影響しているのではないかと推測する。「児童の泳ぎが上手になったかと思うか」で教職員は両校とも100%であった。 モデル事業をして一番良かった点については、それぞれに違いがあった。児童は「プール施設がよい。」保護者は「天候に左右されずに安全にでき、安心できる。」教職員は「インストラクターからの指導」であった。 来年度も「この事業を実施したいか」について児童は80%以上実施して欲しい。保護者も85%以上やって欲しい。教職員は100%やって欲しい。感想について先程、学校の方からあったが、児童は「できるようになってうれしい。楽しい。コーチの指導がわかりやすい。」マイナスではないが、「もっと泳ぎたかった。」という意見もあった。保護者は「子供が楽しみにしている。安心。」「来年度も実施して欲しい」「習熟度別でよい。」「荷物が少なく負担が減ってよい。」他には「2時間続きで疲れていた。」「回数を増やしてほしい。」「プールを撤去して利活用して欲しい。」「先生が厳しい。」等があった。教職員は「来年度も実施して欲しい。」「インストラクターの指導法が勉強になった」「子ども達の体調やトイレなどの訴えに余裕をもって対応することができた。」「評価や安全面についてゆとりをもって取り組むことができた。」という肯定的な意見が多かった。他には、「バスの乗降が学校の敷地が狭く少し心配であった。」「2時間続きで子ども達が疲れていた。」等があった。
流泳館	6月上旬から7月上旬にかけて1ヶ月全学年実施。すべてが初めてのことで、打ち合わせを何回も重ね、スケジュールや指導計画などを作成した。コロナ禍で123年生は学校のプールに入ること自体が初めてだったので、456年生との差は大きかった。1年生はほとんど顔も付けられない状態であったので、4グループに分け、担当も変わらず実施した。水に顔をつけることから1年生はやっていった。最後は一人で浮いて足がついて顔が上がってくるということを教えていった。2年生は2、3回で水慣れはできたので、水の中での呼吸法を重点的に実施。3、4年生はキック、呼吸のコンビネーション。5、6年生は平泳ぎまで実施。平泳ぎは子どもたちも全くわからない状態であった。はじ

	めてなのでコンビネーションから専門的に指導。半分以上の子ども達は 12.5m まで泳ぐことができた。スタッフ一同、初めての取組だったのでみんな疲れていた。今の子ども達は体も大きく、キック等教えることは大変でもあった。厳しく指導した場面もあったが、そこは子ども達も理解してくれ、楽しく、みっちり泳いでくれた。子ども達は 60 分きつかったと思うが、今後色々な経験をしていく中で「自分の身は自分で守る」という流泳館のスタンスで取り組んでいった。来年度も実施されるのであれば、またお願いしたい。
マリーン	感染等で減収だったため、この機会はありがたかった。感謝している。コーチもとても勉強になった。学校の授業の実態、先生方の指導法、児童の泳力など直接見る機会をいただき感謝したい。 日程調整だが、授業は 11 時までの一般営業が始まるまでに終了をお願いした。学校側からの希望日のままスムーズに決めることができた。1 年生から 6 年生までの授業を合計 18 回実施。大雨、台風等の延期があったが、振替調整ができた。移動は 26 人乗りバス 2 台で実施。移動時間は 5 分程度。特に問題なし。一般利用者のいない時間帯だったので、更衣室も余裕をもってできた。プールも全面貸し切り状態だったので、特に制限なく、実施できた。水深 1 m なので低学年はプールマット（40 センチ）を敷いて実施。指導は担任主体。後半は泳力別でコーチが指導。初日に泳力調査を実施。時間はかかったが、スイミングの強みは泳力別なので、その後の指導は効果的に行うことができた。班分けは 10 人にコーチ 1 名。前半は担任で準備運動、水慣れ、後半でコーチによる泳力別でと指導形式を変えたので、児童も集中して実施することができた。成果であるが、出席率も高く、児童も真剣に取り組まれたので、班によってはいつものレッスンよりも短い時間ではあったが、上達率も高かった。改善点はあるが予定とおりの実施ができた。 改善点を活かしながら、取り組んでいくので来年度もお願いしたい。
事務局	R5 以降の方向性について説明する。R 5 は城北小、吉松小が民間スイミングクラブ利用、芳野小中の共同利用の予定。城北小は菊南スイミング、吉松小はマリンスイミングでの実施を検討している。R 6 は植木小、桜木小を予定している。この 2 校については、築年数 50 年以上である。R11 から R16 は資料の赤と青で表示している。青の方はスイミング等と連携を検討できる学校であり、赤の方は児童数が多かったり、近隣にスイミングがなかったりなど条件を満たさない学校を示している。 来年度モデル予定の城北小について説明する。菊南スイミングまでバス片道約 9 分、児童数 419 人プール築年数 58 年。熊本市内の中で最も古い。全体的な劣化が激しい。安全に水泳授業が実施できるように学校の方で対応してもらっている。菊南スイミングは 5 レーン、25 m。受入れについては前向きに考えていただいている。 吉松小はマリンスイミングまでバス約 6 分。児童数 159 人。機械室の劣化が特に激しい。プールサイドの劣化。 芳野小については、芳野中とのプールの共用。芳野中まで徒歩 3 分程度。築 53 年、プー

	ル全体が左に傾いている。その影響でプールサイドが割れていつている状況。R4 に芳野中の 5 レーン分の 2 レーンを底上げし、柵を設ける。R5 はインストラクターの派遣を予定。 次に公的施設を利用したモデル事業であるが、これはまだ検討の段階である。今の所、桜木小を予定している。児童数 444 名。移動時間 12 分。熊本市総合体育館。10 分以内ではない。交通事情、天候によりもっと時間がかかる可能性がある。近隣にははおかスイミング 9 分。まだスイミングには説明等していないので、受入れは不明瞭。公的な施設を利用するメリットは民間と同様であり、コストはかからない。デメリットとして学校が、バス会社やインストラクター等日程の調整等が複数必要。 ～質疑応答～
平木校長	芳野中学校のプールで小学校 6 学年分の授業を実施予定なのだが、プールの深さは、教育的効果を得るためにはどのくらいの深さにしたらよいか。
流泳館	123 年生はプールフロアを入れて実施している。456 年生になると、肩から上が出るくらいの深さ。しっかり足がつく深さがよいのではないかな。
平木校長	埋め戻しを水平にしかできないのであれば、34 年生に合わせ、10 m ほどフロアを入れたほうがよいかと考える。
流泳館	スタートした所からフロアを入れた方が安全。スタート地点と上がる所は足がつくものがあつた方が安全。
事務局	芳野中のプールについての段差については何センチにするか検討している段階である。プールフロアについては屋外であると上げたり入れたりするのに抵抗があるかもしれない。
平木校長	小学生用の小プールを作るよりもフロアを使った方が少しでも経費がかからないかと思つたところである。
事務局	段差やフロアについては今後、検討させていただく。
村上校長	飽田南小病弱学級のお子さんは、交流授業ではなく特別支援学級の時間を確保して行われているのか。
赤星校長	同じ学年の時に同じ並びで行っていた。各班の隣で実施した。
村上校長	本校の特別支援学級の水泳の授業だけは、交流学級ではなく特別支援学級の時間で行つ

	ているので、単独で別の時間でもよいのか。契約の金額が同じ学年でのコマ数での計算になっていた。
事務局	特別支援学級のみ単独で行う場合は、スイミングクラブとの打ち合わせが必要。
村上校長	交流学級で学ぶことは重要であるけれども、できれば、5回のうち、数時間は特別支援学級単独での時間を設けてもらえるとありがたい。児童、担任も安心するのではないかな。
事務局	学校の事情があるので、時間割の組み方等も検討していかなければならない。 飽田南小では、支援が必要なお子さんも水泳の授業には意欲的に参加することができたと聞いているがどうか。
赤星校長	支援が必要なお子さんも水泳の授業だけは生き生きと意欲的に取り組むことができた。 インストラクターの先生にも叱られながらも頑張っている姿があった。
事務局	田底小はどうか。
益永校長	田底小はほとんどの児童が参加することができた。
事務局	視察した際、子ども達は遠足気分でウキウキしながら意欲的に取り組む姿が見られた。
村上校長	不登校のお子さんがある場合、スイミングクラブ側と調整していただき、いけなかった分として予備日等が、1回でもよいのであるとありがたい。5回すべての時間に泳げなかったり、不登校傾向で行けなかったりした児童に対して1回くらいは水泳の授業を受けるチャンスがあるとありがたい。そういった機会を設けることは、子どもにとっても重要な機会となるし、保護者にしても、教育的配慮があると感じられると思う。
事務局	対応についてはスイミングクラブと連携して考えていきたい。
石原校長	菊南スイミングさんでも支援が必要なお子さんも支援ができるか。2, 3時間目、5, 6時間目の時間での実施を職員は希望すると思う。そうすると児童数の関係でコマの割り振りで1日に低中高学年3つ入れるのは難しいのではないかな。そうすると田底小のように2コマセットで時間を短くし、回数を増やすということ可能かな。
事務局	コマ数と時間については、どうか。ご意見はあるか。飽田南小は90分×5回、田底小は75分×6回で実施であった。課題の中でも回数を増やしてほしい等があった。その点についてどうか。

益永校長	2 コマ連続は体力的に厳しいのではないかと考える。75 分 6 回でよかった。5 回よりも 6 回がよいと考える。
赤星校長	回数が多くなってくるのであれば、夏休み前に行うとなれば調整が難しいと思う。学校で日程の調整をする必要がある。コマが多くなれば、9 月以降に数回という形になる。日課を変えたりすると他の学年との兼ね合いもあるので難しい。
流泳館	流泳館としては大丈夫である。学校行事との都合があれば、受入れは可能。6 月頭からの行事はたくさんある。学校とスイミングの話し合いがしっかりできれば可能。 病弱学級のお子さんについても担任の先生に直接来てもらい、綿密に計画を立てて実施できた。特別支援学級の児童も通常学級と一緒に実施した。環境の変化でお子さんもいい方向に変化することができた。とても喜ばれた。やってみないとわからない部分もある。
赤星校長	今年度モデルで実施したので、流れがつかめた。運動会が終わってからとなるが、来年度できるのであれば、もっとスムーズにできると考える。
事務局	通常の 45 分授業であれば 30 分程度しか泳ぐ時間はない。2 時間連続となればとても疲れるかと思うが、児童も集中して実施するので泳力も上がる。
西釜校長	インストラクターさんとの協働、連携について 2 つ質問したい。 1 : コマで何人つかれたか。2 : T 1 T 2 の役割については、学校が決めてよいのか。それとも市で一律なのか。
流泳館	1 年生は 1 チーム 14 人ずつの 4 チームで実施。2 年から 6 年までは 3 チームで 1 チームあたり 1 名。泳ぐ距離がもっと長くなってくるとインストラクターの数も増やさなくてはならないかと考える。1, 2 年生であれば 5 m7, 8mでの練習でしたので、456 年生になればフロアを使って立つところ上がるところを設け 2 5 m の練習を行ったので、1 チーム 3 名。最高で 4 名で実施。
マリーン	10 人に対して 1 名。泳力別なので、泳力調査実施後のグループ編成だったため、平均して 10 人に 1 名であるが、15 人に 1 名あれば 5 人に 1 名である。5 人に 1 名ついた所は日頃のレッスンより手厚く指導ができてとても上手になったということがあった。泳力別であったため、蓋をあけてみないとわからない所もあるので、予定よりコーチを 1 名プラスしたグループもあった。モデルとしての実施なので予備のインストラクターを配置した。
西釜校長	芳野小中の場合は派遣になるので、複数おいでになられると安全面、スキルアップ面で

	もよいと感じる。
事務局	T 1 T2 の位置づけであるが、学校とスイミングで打ち合わせをする中で決めていただいた。事務局としては、学校でやりやすいように決めていただいた。そこで鮑田南小と流泳館はT 1 が流泳館、T 2 を学校の方で、逆に田底小とマリーンはT1 を学校、T2 をマリーンでという 2 パターンでモデルとしてやっていただいたので、良かったと感じる。
事務局	鮑田南小はそのことについてどうであったか。
赤星校長	職員は負担軽減。インストラクターの方に負担をかけてしまった。
事務局	田底小はどうであったか。
益永校長	分担したことはよかったと感じる。56 年生の打ち合わせの時に、クロールができない児童についてはクロールを中心に行うようにした。平泳ぎは取り扱わなくてもよいかという話になったが、学習指導要領に即した点では教員が理解しているので、教員が専門性を発揮する必要がある。マリーンさんもどういった授業をしていけばよいか悩まれていたもので、前半は学校が、後半はマリーンさんがということで最終的には話が決まりよかったと感じる。
事務局	色々な授業のスタイルがあるが、スパイラル型でやっていくのか、ステージ型でやっていくのかなどうまく計画を立てられるといい方向にいくと感じる。 これも学校とスイミングの話し合いの中で決定していくので、決まりはない。 事務局で視察に行った際は、ほぼ 8 割インストラクターが主導で行っていた。先進地の教育委員会ではもう少し先生方に入ってもらいたいということを言われていたので、それからすれば、熊本市は連携がうまくいったと感じる。
益永校長	先生方も異動があるため、先生方も T 1 での力をつける必要がある。インストラクターの方が教える内容も T 2 になった時、学びが多かった。異動した先の学校でも活かすことができるのではないかと思う。 インストラクターの派遣は安全面だけではない。教員のスキルアップなので勉強にもなり、ありがたく感じる。
内村代表	保護者の立場からしたらいい環境でいい指導が受けられるということから、メリットしかない。保護者の負担もなく、他の保護者からしたらうらやましい。
事務局	事務局としては、他の学校との不平等を解消するためインストラクターの派遣等をしていければと考えている。

坂下教授	昨年度の会議で授業回数の件、打ち合わせを十分に行うことができるかという課題があげられたが、今回いい話をお聞きできてよかった。また、技能のみならず、知識面での向上の報告もあり、よかった。 学習指導要領において、低学年は「水遊び」の領域であるが、低学年の授業の様子をお聞きしたい。
流泳館	低学年は、コロナの影響で大きいプールを見ること自体が初めてという感じであった。プールサイドに立つ時点で怖がっている子どもが大半であった。プールフロアを入れてここは足がつく、足がつかないということから教えた。123年生と456年生での差は本当に大きい。4年生は手足を使ってバタバタと進んでいくのに対して、3年生は顔を付けることができないということで差が大きかった。
マリーン	初心者は水深があること自体に恐怖心があるので、フロアを入れる作業は労力があつた。また、フロアを敷き詰めても大きな動きや走り回ることができなかつたので、デメリットとして通常学校でできていたことができなかった。個人的には、低学年に関しては浅いプールで走って水の抵抗を感じる活動等ができたらよかったと感じる。低学年に関しては、先生方が色々な工夫をしてくださつたので、子ども達も盛り上がっていた。
坂下教授	環境づくりの工夫や先生方がお持ちの水遊びの教材の活用、子ども同士関わることなどの「水遊び」の内容を大切に、楽しいと思える活動を大事にしていきたい。
松島次長	今後の予定についてだが、予定としては来年度3校増やして次年度はさらに2校ということで進めていく。全体的に受け入れる側としてはどのくらい可能か。メリットが多いので学校側、受け入れる側が可能であれば、どんどん進んでいくのではないかな。
梶原副会長	各クラブは横のつながりがあるので、今回のことは情報共有できると感じる。流泳館、マリーンは熊本県内でも指導力のあるクラブである。他のクラブもコロナ禍、少子化の中で頑張っている。スイミングは水泳のプロばかりであるので、やはり一番大切なのは打ち合わせが重要であり、そこに時間を要すると感じる。学校の状態や規模によっても計画が変わってくるので、しっかり打ち合わせしていけば可能であると感じる。
大賀副会長	とてもいい例を出して、実践していただいているので参考となった。各クラブの建物や状況やコーチの経験は様々。ただ指導力に関してはお任せくださいということですが、バスを準備できたり、ハード面だったりクラブでものすごく違うので、できるところは進めていった方が、よい例がたくさんでくる。課題も見えてくるので可能であれば進めていただきたい。
内村課長	施設側から言いますと、今後老朽化が進んでいく。その中で児童数472名が基準であり、

	400名を受け入れるのが可能かということを今後、探っていく必要がある。それが分かってきた時点で整理計画を進めていきたい。引き続き情報交換をさせていただきたい。
事務局	予定は示しているが、今後受入れ等の条件があれば早めに進めていくことは可能と考える。ただ、距離の問題で随意契約という形をとっているが、近隣にスイミングクラブが複数ある学校のプールを再編する場合は、競争入札になってくると考える。 再編ができない学校もインストラクターを派遣していければと思う。予算を付けていく必要がある。
柴田校長	本校は小プールがない。水深を水位で調整しているので非常に手間がかかる。できれば早く進めていただきたい。
平生校長	中学校は体育専門がいるので水泳指導自体に困ることはないが、このようなモデルは取り組みとしていいと思う。ただ、熊本地震でプールの水を活用した経験があり、災害が起きた場合、その点がどうなるか気になる。何をもって代替されるのか。
事務局	地域にも説明に行った。危機防災関係との絡みがある。ただ、学校にプールを設置しなければならないという決まりはない。プールに代わる防災井戸や水路などで代替は可能か現在確認中である。
益永校長	各地区に防災用のプールがあるがあまり活用されてない。井戸が設置できるのであれば、そうしていただきたい。プールをそのまま残しておく維持管理が大変である。
松島次長	クラブにはキャパがあり、それぞれの立場からどうか。1年中クラブでは水泳が実施できるので時期を分散すると広げやすい。ただ学校の立場から夏以外で実施することはどうなのか。
赤星校長	夏休みに入る前に水難事故防止の観点から実施したかった。回数が増えれば分散でもよいのかと思う。水難事故等防止に関して夏休み前に水泳の授業をしっかりと夏休みを迎えたいという気持ちがある。
益永校長	水難事故等防止の観点から夏休み前に実施したい。冬は髪を乾かすのにも時間がかかり寒い。夏がよい。冬に実施するのであれば年間計画を変える必要がある。
平木校長	老朽化の面、小プールがないということ。日程調整やオンライン授業、水深調整等がかなり必要になり、別の課題がでてくる。小学校との兼ね合い等もある。相対として予算は限られたものであるが、これ以上運営としては厳しいものがあるので、学校にとってもよいこともないといけない。今後、要望も色々上げさせていただきたいと感じる。

西釜校長	夏のシーズン前に命を守るための水泳の授業をお願いしたい。
流泳館	年間を通しては民間としてはありがたい。流泳館の考えとしては、寒い冬をとおして体が強くなるという考えを保護者には伝えている。学校の考えに合わせる。
マリーナ	通年を通して利用していただけるとありがたい。過去に他の自治体からも同じような問い合わせがあった。今後、その際優先順位がつけられず、調整がかなり難しくなると感じる。
事務局	神戸市の視察の際、小中で1つのプールを利用していた学校があったが、コマが確定していた。段差は変えてあるが、水位の調整はしていた。
村上校長	打ち合わせの重要性を感じた。授業者となる教員が見学できたり、打ち合わせできたりする枠、時間の確保をお願いしたい。 代表だけの打ち合わせになると、水泳の授業は命にかかわることなので、授業者が事前に打ち合わせができていないと不安に感じる。
石原校長	本校は来年度菊南スイミングにお世話になる予定であるが、時間の割り振りについて等、スイミングとの打ち合わせの出だしを市教委の方で段取りしていただけると助かる。
赤星校長	来年度飽田南小は継続でよろしいか。
事務局	その方向で予算を要求しているところ。
赤星校長	継続することが早くわかれば、余裕をもって調整することができる。それに合わせて学校の行事も調整できる。
中村部長	学校教育として、民間と進めていくことはよいことが結果として聞くことができた。課題もあるが意義があるものと思う。公共施設マネジメントの観点からもしっかりと取り組んでもらいたいと思う。
益永校長	来年度以降続いていくこととなったら、プール施設をどうするのか地域との話が必要であると思う。学校は撤去していただきたいと考えている。
田口部長	熱心にご指導いただきありがとうございました。色々な視点からご意見いただきありがとうございました。よりよい形、市全体としてどのように進めていくことをしっかり考えていきたい。子ども達の泳力、命を守るという観点から今後も進めてまいりたい。